

## 7 コース制

人間環境学部では履修を進めていく上でのガイドとなるよう「コース制」を設けています。**2016年度以降の入学者は、2年次から5つのコースのうち一つを選択し、コース共通科目（10単位以上）とコースコア科目（20単位以上）を履修することが求められます（SSI生はコース共通科目から8単位以上、コースコア科目から12単位以上）。**なお、2015年度以前に入学した学生は該当しませんが、コース共通科目とコースコア科目の配置をみて、自分自身の学習の方向性を明確にしてください。コース選択はあくまでも皆さんの自発的で自由な意思によって行うものとなっており、各コースの定員などは無く、登録に当たっての選抜試験などは行いません。

RSPはコース制を設けていませんが、科目選択の際に参考にしてください。

### 7.1 コース概要

#### (1)5つのコース

各コースとも定員はありません。各人は希望に従い以下のいずれかのコースに属します。

- 「サステイナブル経済・経営コース」
- 「ローカル・サステイナビリティコース」
- 「グローバル・サステイナビリティコース」
- 「人間文化コース」
- 「環境サイエンスコース」

#### (2)5つのコースの内容

各コースの内容と学習の方向性は以下のとおりです。

##### <サステイナブル経済・経営コース>

経済活動と環境保全が調和するグリーンエコノミーの担い手がもとめられる時代です。そこでこのコースでは、持続可能な市場経済に貢献する人材を育成します。経済理論、企業経営の理論と歴史、現代社会における企業の役割について基礎知識を身につけ、その上で、環境配慮型の市場経済と経済政策、先進的な企業の環境経営とCSR（企業の社会的責任）に関する動向に触れながら、企業やその他の事業主体が社会的責任を果たしていくためのマネジメントやビジネスモデル、さらにグリーンエコノミーを支える生活者の消費行動やライフスタイルなどについて探究します。

##### <ローカル・サステイナビリティコース>

ローカルなフィールド体験をベースに、持続可能な地域社会に貢献する実践的な知と構想力を有する人材を育成するコースです。現代のローカル・サステイナビリティに関するテーマは、廃棄物や公害、自然保護などの環境問題だけではなく、エネルギー、交通、都市計画、農林水産業、福祉など、都市と農山村の地域づくり全般に及び、またローカルな問題とグローバルな問題の関わりも重要です。そこでこのコースでは、これらのテーマについて最新のケースとともに学際的に探究し、さらに市民・自治体・NPO・企業など多様な主体の役割と協働について学び、将来の「グローバル人材」としての自分を展望します。

### <グローバル・サステナビリティコース>

幅広い教養と広い視野を備え、国境を越えた思考で地球規模の持続可能な発展に貢献する「グローバル人材」を育成するコースです。国際社会の動向について基本的な知識を身につけながら、学際的な学びとグローバル体験を通して、気候変動（地球温暖化）や生物多様性、平和、貧困と開発など、グローバル・サステナビリティに関わる多様なテーマについて探究します。また、地球社会の行方を左右する新興国や途上国の発展と国際協力、先進国日本の役割、さらに政府・NGOなどの市民社会・企業のパートナーシップのありかたについて学び、将来、自らが「グローバル人材」として活躍する場について考えます。

### <人間文化コース>

人類が持続可能な社会に向かうためには、様々な針路と実践を模索し選択していかなければなりません。その根幹は、数字では表すことができない価値観、幸福感や死生観といった「人間の意思」です。そこでこのコースでは、「持続可能でグローバルな共創社会」に貢献する「市民」にふさわしい知性と感性を備えた人材を育成します。思想・哲学、歴史学、文学・芸術、民俗学、人類学など人文科学をベースにして人間の軌跡と生きる意味を見つめ直し、さらに学際的な学びを通して、将来の人間や文化（衣食住、技術、学問、芸術、道徳、宗教、政治などの生活形成の様式と内容の総体）の行方について探究します。

### <環境サイエンスコース>

サイエンス・マインドを持って持続可能な社会に貢献できる文系の人材を育成するコースです。環境問題の解決のためには、自然環境、災害などの解明や人類に影響を与える科学技術を開発する役割を担う自然科学の専門家、さらに市民をはじめとする利害関係者と対話しながら、多様な利害を調整し、対策について総合的な判断やコンサルティングができる人材が必要です。そこでこのコースでは、社会科学や人文科学とともに、自然—人間—社会のつながりに関する生態学的な思考など、自然科学の基礎教養を通してサイエンス・マインドを身につけ、科学・科学技術と経済・社会・政策の関係性についても探究します。

### (3)「研究会」や講義との関係

とくに研究会 A は特定の関連コースを明示し、コース制指導の要となる場ですから、自分が特に関心が深いコースを示している研究会を参加候補とする、あるいは逆に、自分が最も入りたい研究会と関連するコースを自分の選択コースとする、といった発想が有効です。

なお、人数制限のある授業やフィールドスタディなどは、所属コースを受講者選抜の参考にする場合があります。

### (4)コースの登録

新2年生は、毎年1年次の12月からコースの登録を行います。詳細は揭示版で確認してください。

#### 1)研究会 A に参加することが確定している場合

所属する研究会 A の担当教員が示すコースを登録してください(複数示されている場合は、自分で1つ選んで登録)。所属する研究会 A の関連するコースと、登録するコースは、必ず一致する必要があります。

#### 2)研究会 B に参加することが確定している場合

自分の選びたいコースが、研究会 B が示すコースと一致していなくとも構いません。関心の深いコースを自分で1つ選んで登録してください。

#### 3)研究会に参加しない場合

2)の場合同様、関心の深いコースを自分で1つ選んで登録してください。

#### 4) コースの変更

3年次進級時に限り、コース変更が可能です（登録変更申請は、2年次の12月です）。ただし、コース変更により卒業要件にかかるコースコア科目が変更となりますので、注意してください。なお、4年次進級時のコース変更はいかなる場合も出来ません。

#### (5) 5つのコースの関連科目

学部-(109)に示す「専門科目およびコース関連科目表」を皆さんの履修計画に活用してください。また専門的領域を持ち、勉学を深めるために、積極的に教員のアドバイスを求めてください。

#### (6) コースをこえた学習上の創意工夫

コースに関連した科目区分は3つに大別されます。コース共通科目（☆印）は、コースに関係なく履修してほしい科目で10単位以上（SSI生は8単位以上）、修得する必要があります。また、コースコア科目（◎印）は各自が選択し所属したコースの中で重要な科目であり、20単位以上（SSIは12単位以上）の修得が必要です。コース共通科目とコースコア科目だけを履修することで卒業所要単位を揃えることも不可能ではありませんが、自分が所属するコースをこえた学習をするために、コース連環科目（\*印）も履修することが望ましいといえます。例えば、自分のメインの専門領域として1つのコースに登録してコースコア科目を集中的に学習しながら、サブの専門領域として別のコースのコア科目であるコース連環科目を履修すると、2つの専門領域を学ぶことができます。一方で、コース共通科目やコースコア科目を履修しながらも、幅広くコース連環科目を履修することで、学際的な学習をすることも可能です。